



# Rainbow ~伝統を繋ぎ煌めく未来へ~

## 3学期式辞 思いを込めて

おはようございます。

2025年、令和7年の幕が上がります、いよいよ今日から、3学期が始まります。

3学期は、現在の学年を終える節目の学期です。

且つ、3年生は本校を卒業して、進学や就職していくための、2年生・1年生は一つ学年が進級するための、様々な準備を進め、新たなステージへスムーズに移行できるよう助走をつける重要な期間でもあります。

しかし、授業日数が少ない上に、1月往く、2月逃げる、3月去ると言われるように、月日が加速度をつけて過ぎゆく感じさえします。

気を引き締めて、一日一日を大切に、学校スローガン「一步先の未来に向けて虹光に輝く自分創り」の実現を心掛けましょう。

そのため、次の二つのこととお話します。

最初は、人は、大きく3つに分けられるといえます。

一つ目は、言われてもしない人

二つ目は、言われたらする人

三つ目は、言われなくても自ら気づき考え行動する人

これらの中で、社会から求められるのはどんな人でしょうか、言い換えれば、どんな人をあなたなら求めますか。

「自ら気づき考え行動する人」こそ求められる人だと思います。

主体的に行動できる人は、輝いている人であり、充実した人生が歩める人でもあります。

次は、新年を迎え、皆さん一人ひとり新たな目標、夢や志、そこまで形にならなくても、何かをしてみたいという漠然とした思いを抱いていることでしょうか。その実現に向けて、地道に努力することが、自分を磨き高め輝かせることとなります。幸せな人生へとつながっていきます。

今年は巳年、巳(蛇)は脱皮を繰り返しながら、成長していきます。皆さんも小さな自分の殻を破り、大きく成長していきましょう。

充実した3学期にしていきましょう。

式辞は以上で終わります。

皆さんに、重大な発表があります。

令和7年度から、看護、福祉、調理の3学科で一部共学化しますが、令和8年度からは、普通科、商業科も共学化し、全面共学化とします。

女性専門の教育機関、山口県唯一の女子高としての幕を閉じますが、山口中村学園としての新たな歴史とともに築いていきましょう。

## 返事一つで人生が好転し、あいさつ一つで関係が良好になる！！

いずれ社会人となって、特定の職場で仕事をするようになりますが、返事とあいさつは、信頼を得たり、人間関係を円滑にするうえでも大変重要です。

任命式での返事と礼は大変立派でした。それを聞いただけ、見ただけでその人の人柄が思われます。

返事やあいさつは、小さなころから家庭でしつけられ、学校で指導されたりすることはもちろん、当たり前すぎて意味など考えず、習慣で行っている面もあるかもしれませんが。しかし、当たり前こそ社会生活の基本で、極めて重要なことです。そのことを意識できて、きちんとした返事や気持ちの良いあいさつができることは難しいことです。

ここで今一度、返事とあいさつの意味を見てみましょう。

返事は、相手の呼びかけに対する「反応」、そして相手の話した内容に対して、自身の行動を示す「意思表示」の2つの役割があります。『はい』という返事の語源は、『拝』という字です。『拝』という字の意味は、“ていねいに敬礼する”、“ありがたく受ける”つまり、『はい』という返事は、相手を敬う気持ち、相手の呼びかけを感謝して受け取る気持ちの現れなのです。そのため、きちんとした返事は、その人の謙虚さ素直さといった人柄を思わせもします。

一方「あいさつ」は、禅から生まれたことばです。禅を修行しているお坊さん同士が会ったとき、相手がどのくらい悟りの道を進んでいるかを確かめるやりとりを意味する「一挨拶」が短くなって「挨拶（あいさつ）」になったといわれています。そして、「挨拶」は相手に近づくこと、「挨拶」は相手にせまることなどを意味します。同じ学校で生活していても、よく知っている人もいればそうでない人もいます、そのことに関わりなく、自分からあいさつをすることが重要です。かけられたあいさつに対して、無言で通り過ぎることほど失礼な態度はありません。社会人になり、職場でのよりよい人間関係作りはあいさつからです。

## 心を育み、脳を活性化する読書

「押し活」なる言葉もあり、生活に張りを与える押しの存在の意義は、平凡な日常にあればこそ、また自分自身に対する肯定感や自尊感情が低いほど、アバター、自己の分身として、自分の夢を代行してくれて、高揚感が得られ、高まるのかもしれませんが。



『押し、燃ゆ』 宇佐美りん 著 社 河出書房新社

女子高生が、自分のお気に入りの芸能人を、昔で言うアイドルをファンとして追っかけ、熱烈に応援する内容です。昔との違いは、SNSの発達により、より身近に直接的に、リアルタイムでアイドルの今に接することができる点です。表現が感覚的で独特、ユニークさとともに、生な感じがします。押しに生きがい、自己存在の意義を見いだす点に脆さ、危うさも感じます。